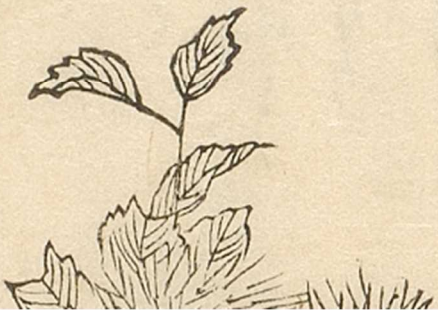


焼栗山孝順寺

三度栗之圖

け栗とどち花のうき実とむらぶ  
 り栗の栗ふかまうたるるるー  
 其実の大きとるるるわどよあ  
 うり花の实より少しこの花  
 二度乃花と開き実とむらぶ  
 け実又らるるの大きとる  
 たるり花のうき実とむらぶ  
 たる一葉の实の大きとる  
 いが破とくく栗の实  
 外よりくくれぬけ花  
 梢の末に芽三葉の  
 花のうき実とむらぶ  
 秋冷とやく僅に芽の三葉  
 乃花の实のうき実とむらぶ  
 遠き年の一二三の栗白と遠へ  
 悉く実のうき実とむらぶ



出典：『二十四輩巡拝図会』河内国専教寺积了貞著 享和3年(1803)〔請求記号：E1706-915〕



【練習問題 A】 解答

焼栗山孝順寺 三度栗之図

此栗はじめ花ひらき実をむすぶ  
事、常の栗にかわりたる事なし  
其実の大ききくるみほどこに成り  
たる頃、先の実より少し上の方に  
二番の花を開き実をむすぶ  
此実又くるみの大きさに  
なれる時は、はじめむすび  
たる一番の実ははや其  
いが破れて栗の実  
外にあらわれぬ、此時  
梢の末に第三番の  
花ひらき頓て実のれり  
秋冷はやく催す年は三番  
の花は実ならざるもあり、冷気  
遅き年は一二三の栗旬を違へず  
悉く実のる事、誠に寿樹と謂べし

三度栗（阿賀野市保田 孝順寺）

越後七不思議の一つ。一年に三度花が咲き、実がなるという栗。